

アースデイ神戸 2017 に出店しました

今年も5月4日(木祝)、5日(金祝)みなとの森公園(震災復興記念公園)でネパール雑貨などを販売しました。活動報告を掲示し、来場者に活動内容の説明を行いました。神戸女子大学の学生がボランティアとしてお手伝いに来てくれました。



富士通春まつりに出店しました

4月9日(日)富士通明石工場でAMDA兵庫の広報活動のためネパール紅茶やネパール雑貨を販売しました。桜満開の中、会場は多くの人で賑わいました。



ご支援への感謝を込めて

AMDA 兵庫理事長 江口貴博

いつもAMDA兵庫の活動にご理解とご支援を頂きありがとうございます。私たちAMDA兵庫は1998年の設立以来、阪神淡路大震災をきっかけにできたネパール子ども病院(ネパール名、シッダールタ母子専門病院)への支援を中心に活動して参りました。皆様の温かいご支援によりまして、ネパール子ども病院では開院以来75万人を超える母子が病院を訪れ、5万人もの赤ちゃんが誕生しました。その間、ネパールの乳幼児死亡率は3分の1以下となり、地域に無くてはならない病院として機能しています。今年度は現地医療スタッフから要望のあった16種類の医療機器を選定し、昨年末にほぼ納入を終えました。また、医師や看護師の国内研修を補助し、医療のさらなる質向上への支援を継続しています。そして、私たちの活動のもう一つの大きな柱は、災害医療支援活動です。阪神淡路大震災時の災害医療の経験から、AMDAの理念である「相互扶助」とともに「阪神淡路大震災のお礼をしよう」というキャッチフレーズの元、東日本大震災や熊本地震において、医師、看護師、助産師、薬剤師、検査技師などを派遣してきました。また、来たるべき東南海地震において、AMDA本部の進める徳島県、高知県との災害医療支援プラットフォームに参加、徳島県阿南市を担当し、阿南市役所や医師会、歯科医師会、航空医療研究所などとの連携を進めています。私たちは、これからもネパールの母子医療や災害医療を中心に活動を行って参ります。引き続きご支援下さいますよう、どうぞよろしくお願い致します。

= AMDA 兵庫活動記録【平成29年4月1日～平成30年3月31日】 =

平成29年3月25日～4月3日	ネパール子ども病院訪問(河田、原田)
平成29年4月1日～平成30年3月31日	兵庫県支部写真展開催 一兵庫医療大学地域連携室に於いて(桂木、藤本)
平成29年4月2日	岡山アムダ本部訪問(江口、中田、中山)
平成29年4月9日	富士通春まつり参加(岩村、江口、桂木、川西、中田、中山、藤本、ロニー)
平成29年4月12日	大阪ガスともしびクラブ寄付金贈呈式・ネパール子ども病院の現状報告(江口)
平成29年5月4日～5日	アースデイ神戸参加(岩村、中田、原田、藤本、神戸女子大学学生)
平成29年7月9日	岡山アムダ本部 国際医療保健貢献プラットフォーム総会出席(江口、鈴記)
平成29年7月23日	岡山アムダ本部 南海地震 災害医療提携(江口)
平成29年8月2日	神戸市薬剤師会訪問(江口)
平成29年8月9日	兵庫県災害医療センター 第1回兵庫県災害救急医療システム運営協議会参加(江口)
平成29年8月11日～14日	東日本母子支援活動 宮城県石巻市雄勝(小倉、藤本、神戸女子大学学生)
平成29年8月24日～30日	ネパール子ども病院訪問(神徳和郎、神徳規子)
平成29年9月11日～18日	チアパス地震緊急支援活動 メキシコ(鈴記)
平成29年11月6日	兵庫県災害医療センター 第2回兵庫県災害救急医療システム運営協議会参加(中田)
平成29年11月23日	岡山アムダ本部訪問(江口、中田、中山)

= ご寄付(敬称略)【平成29年4月1日～平成30年3月31日】 =

藍の都脳神経外科病院、池本真一、井上京子、笠原洋、岸路悦子、神戸市薬剤師会、小林真也子、震災記念公園、ソロプチミスト
土井真理子、松宮千枝、水の都記念病院 (五十音順)


◇会員の募集

活動にご賛同いただける方は、ご協力をお願いいたします。

年会費	
正会員	: 年会費 10,000円
賛助会員	: 年会費 1口3,000円(1口以上)
学生会員	: 年会費 3,000円

◇AMDA兵庫の活動に参加して下さい

AMDA兵庫では前述のプロジェクトに精力的に取り組んでいます。現在、これらの活動に賛同して下さる会員を募っております。月に一度の定例会を開いております。AMDA兵庫にご興味のある方は、ぜひ一度ご参加ください。

	AMDA 兵庫	
	〒673-0896	定例会 毎月第一土曜日 16:30～18:00
	明石市日富美町5-16 3階にじ作業所内	(会場はHPに掲載)
	E-mail: amdahyogo@yahoo.co.jp	HP: http://amda-hyogo.com 発効日: 2018年5月

AMDA兵庫だより

2017.4～2018.3 Vol.8



ネパール



平成29年度ネパール子ども病院支援活動 1 原田 弥生子 河田 里奈

- ▶ 訪問期間 2017年3月27日～31日
- ▶ 訪問者 原田弥生子(薬剤師) 河田里奈(保健師)
- ▶ 目的
 1. 病院環境整備のための聞き取り調査実施や情報収集、支援方法の検討
 2. スタッフの研修ニーズ、受け入れ機関や体制の検討
- ▶ 日程
 - 1日目 スタッフミーティング、病院内外環境確認(昼・夜間)
 - 2日目 ドクターミーティング参加、病院内外環境確認
看護師長への聞き取り調査、各病棟スタッフへの不足物品等の聞き取り
 - 3日目 病院内環境確認、地域保健センター訪問
 - 4日目 スタッフとの意見交換、支援内容の検討
 - 5日目 トリバン大学病院にて、研修先の検討のための視察

院内外環境整備(改装計画、塀)

4. 医療機材の支援の決定
・16項目

5. 看護師長インタビュー結果

▶ トレーニングを受けることはスタッフのモチベーションを上げることに有効か ⇒ Yes.

▶ 研修を受けるとしたら

・Nepalで研修を受けるメリットは2～3日で帰ってこれること。医療人としてのコミュニケーションをトレーニングしていくにはよい。参加しやすい。言葉、食事や環境面で参加しやすい。

・日本とネパール国内での研修ではどちらがよいかについては、研修の種類による。高度医療をみるには日本がよいが、時間やお金、食生活の問題があるため難しい。インドでの研修は、イメージがつきにくい。学位取得に行く人はいる。ただ、今までにインドでの研修の情報を得られたことがないのでどんな研修が受けられるかイメージがつかない。医師は自分たちで勉強会や学会に行っているが、スタッフに対しての振り返りがないのでイメージがつかない。(一部抜粋)

6. 地域保健センター訪問

7. トリバン大学病院での研修先の検討

今後の課題

- ▶ 2017年9月までに支援予定の医療機材が購入、稼働されているかを確認する
- ▶ 関係を継続すること、訪問し変化を認めることを継続していく
- ▶ カトマンズでの研修の支援
- ▶ 要望にあったが今回の支援に入っていないドブラー、患者移動に使用するスライダーシートなどを訪問時に持参することを検討する



平成 29 年度ネパール子ども病院支援活動 2 神徳 規子

- ▶ 訪問期間 2017年8月24日～29日
- ▶ 訪問者 神徳和郎 神徳規子 高梨信子
- ▶ 視察報告

3年9ヶ月ぶりの訪問で看護の視点での評価を行った。3月に訪問した河田さんからの報告で、ネパール子ども病院の看護部長が進歩は遅いが向上していることを認めて欲しいとの発言を尊重し、巡回した。私は過去3回の清潔に対するワークショップを実施した。ワークショップが生かされているかの視点では母乳哺育、OP室の手術器械の2重ラップは継続中であり、感染防止の手洗いの指導がタオルからアルコール手洗いに変化していた。分娩室のカーテンがやっと整備されたが、まだ個々ではない。使用状況は分娩に遭わず確認できていない。NICUでは新しいカンガルーケアが実施されていた。OP室の体温保持の方法は遭遇せず確認できなかった。点滴時の清潔保持は針にキャップをして保持されていたが、点滴セットは2日で交換するとか、経済的理由が影響していると考えられる。点滴薬液は一日で交換するとか、確認は取れなかった。

1. 変化していたこと

1) 外観

- ・OPD前庭が整備されていた
- ・全体的に前回に比較すると綺麗になっていた
- ・病院周辺での家族の炊事は見かけなかった
- 2) 旧病棟(第1棟)が小児病棟になっていた。
- ・OPDの2階の病棟は研修生用の寮へに
- ・NICUの跡が小児外科病室に
- ・PICU 6bedも新設されていた
- ・QQ外来が玄関前に移動、その奥に経過観察室(15床)を設けていた
- ・薬局の前のQQ外来は小児病室に

★拡散していた小児病棟が一ヶ所に集まって、管理しやすいのでは?

3) 管理棟に看護部長室が設けられていた。

- ・看護部の位置づけが良くなったのか期待したい

4) 4年経過した新病棟のOP室の床はボロボロ、懸念した通りである。前回の訪問は、開業1ヶ月後の訪問であったが、OP室の床は既に波打っていた。

2. 下記の小機器の贈呈

- ・自動血圧計 1台
- ・小児用酸素モニター 3台
- ・電子体温計 耳用 1個、他3個

★配置場所については一任したが酸素モニターは1台、QQ外来に配置することを希望する。

3. 変化していないこと

- ・病院周囲の洗濯物干しは減少しているようだが、相変わらずである
- ・家族棟に泊まれない人が居るようで、布団や毛布が置かれていた
- ・post OP・NICUの前には患者家族が大勢たむろしている

今回の訪問はゆっくりと病棟の看護のチェックができず、いろんな場面に遭遇できなかった。看護の質の変化のチェックは時間をかける必要があると思う。今回の訪問での実感。

Workshop について

今回の滞在では以前から提唱し続けている、「5S」の遵守について再度指導をさせていただいた。「5S」とは次の5項目をまとめたものである。整理、整頓、清掃、清潔、しつけ。

言葉の壁もあり、Workshop内容について現地からの直接のリクエストは無いものの、看護部長はじめ看護師の平均勤務年数が10年を超えていることを鑑みると、看護管理・婦長業務についての更なる教育支援の必要性があるのではと、AMDA兵庫では常々考えている。今後はトリバン大学病院研修参加への支援も含め現地の要望も聞きながら計画していきたい。

AMDA 兵庫写真展継続中!

兵庫医療大学(ポートアイランド)の地域連携室でAMDA兵庫の活動を写真と共に紹介しています。地域連携室の開閉時間は、平日の9:30～16:00。どなたでもお越しいただけます。多数のご来場をお待ちしております。



の状況や現状を知ってもらう。このことは震災6年を経て、震災の記憶が薄れてきている学生にとっての防災教育の一貫でもある。

8月11日(金)18時、神戸市役所前を出発。今回は、神戸女子大学生10名と共に宮城県石巻市雄勝を目指した。

8月12日(土)6時35分道の駅『上品の郷』に到着。朝食を購入後、大川小学校へ。メディアで見聞きしていた大川小学校を実際に見た学生たちは多くの衝撃を受けた。ここで小倉医師と合流。バスの中で道々の被害・復興話を聞きながら復興まちづくり情報交流館(雄勝館)に到着。9時から東日本大震災DVDを鑑賞し、お二人の震災語り部さんから震災当時の様子、体験、現在の話などを聞き、学生からの質問や感想など意見交換を行った。語り部の一人は学生と同年代ということもあり自分が現場に居たらどうしただろうかと、想いを共有したようだった。もう一人は看護師として震災現場に居た方で、将来学生が看護師になってから災害にあった時、個人として、医療人としてどうすればいいのかを考えられたようだった。母親が看護師をしている学生もあり、災害時の苦悩を知ることができたこと涙を流す場面もあった。震災6年が経ち、震災の記憶が薄れてきている学生にとって、今後起こるかもしれない災害に対する防災意識の向上への一助になったと思われる。

店こ屋商店街での昼食後、雄勝硯組合倉庫で「灯籠」作り。雄勝町では毎年8月14日に「雄勝湾灯籠流し」を行い、町で亡くなられた人々の霊を吊っている。これまで住民が1戸に2個ずつ灯籠を制作していたが、震災で町が壊滅し、これまでのように必要数の灯籠を制作できなくなっている。1,000個の灯籠のうち300個は雄勝町民で制作したそうだが、残り700個をボランティアが制作することになっており、今回150～200個の灯籠制作ができた。体を動かして働いた後は、甘いものが一番ということでO-LINK HOUSEのCafe「縁」でパフェを食べた。O-LINK HOUSEは、今後の雄勝まちづくり計画の為、復興まちづ

くり交流館の隣に引越しになるそうだ。

今夜宿泊の「亀山旅館」では、雄勝の海鮮てんこ盛りの夕食を食べた後、今日の感想を述べあったり、小倉医師から翌日訪れる予定の女川・石巻市門脇地区の話聞いた。

13日(日)は、未だ復興途中にある被災地の住民に「私たちは忘れていませんよ」というメッセージを込めて、これまでAMDA兵庫が震災後支援し関係を構築してきた大須地区でお茶っこ(傾聴)、「ふるさと」の音楽に合わせての体操、合唱(花は咲く)などを通じて交流活動を行った。朝から小雨が降っていたが、悪天候とお盆で忙しい中、9名の住民の皆さんが大須集会所に来て下さり、一緒に楽しい時間を過ごした。

交流会の後は、MORIUMIUSに立ち寄り見学をした。モリウミアスは、こどもたちの好奇心と探究心を刺激する複合体験施設。かつて約4300人が暮らしていた雄勝町は、東日本大震災の被害を受けて、その人口が1000人以下まで減少し、町の8割が壊滅してしましたが、地域の復興への思いから、高台に残る築93年の廃校が新たな学び場として生まれ変わった。この場所を見学することで、復興のいろいろな形を知るきっかけとなった。

午後は、女川と石巻市門脇地区に寄って帰路に着いた。女川の海辺には、震災時に津波によって横倒しになったままの交番が道路の左側に残されていたが、右側には女川駅前から続く商業施設街がありとてもおしゃれなお店が並んでいた。訪れたときは昼食時で人が多く賑わっていた。石巻市門脇地区は女川町とは対照的で、草が生え放題の土地が広がっていた。道路は、当日まで降り続いた雨が大きい水溜まりを作っており、バスでの移動も困難だった。「がんばろう!石巻」の前で、門脇地区の震災当時のことを話して下さる男性に会い写真も見せていただいた。門脇地区を襲った震災の状況を偶然にも聞く機会を得て、地震・津波だけでなく、その後に起きた火災の恐怖に言葉を失った。

*平成29年度「被災地『絆』ボランティア活動支援事業」ボランティアバス助成を受けています。

東日本支援

平成 29 年度東日本支援事業 雄勝ボランティアバス 藤本 瑞穂



日時: 2017年8月11日(金)～14日(月)

場所: 宮城県石巻市雄勝

【活動内容・目的】

・被災地住民との交流: これまでAMDA兵庫が支援し関係を構築してきた地区で傾聴などの交流活動を行い未だ復興途中にある被災地の住民に「私たちは忘れていませんよ」というメッセージを送る。

・地域イベントのお手伝い: 8月14日に「雄勝湾灯籠流し」を行い、町で亡くなられた人々の霊を吊っている。これまで住民が1戸に2個ずつ灯籠を制作していたが、震災で町が壊滅し、これまでのように必要数の灯籠を制作できなくなっており、作製するボランティアが必要な状況である。今回、交流活動とともに灯籠制作の手伝いをする。

・東日本大震災の状況や現状を知る: 震災語り部から震災当時のお話を聞いたり被災地を巡ることで、東日本大震災

